

令和5年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文



中学校の部 最優秀賞

同じベクトルで歩める世界へ

会津美里町立高田中学校

3年 千葉 あきの

「オーケン（ありがとう）」

市場で買い物をした私たち家族に向けられた白い歯がこぼれる笑顔。カンボジアでのこの光景が印象に残っている。

私は、11歳の夏に家族でカンボジアに旅行に行った。家族で市場で買い物に行ったとき、市場に並んだ魚にはたくさんの虫がついていた。虫だらけの魚も貴重な食料なのだ。現地の人々からは貧しい生活の様子が見て取れた。しかし、みんな明るい笑顔で私たちに話しかけてくれた。現地の言葉では通じないので片言の英語で話しかけてくる人もいて、父母と英語で何とかコミュニケーションをとろうとしていることがよくわかった。その一生懸命な様子に私は、この人たちの少しでも助けになることがしたいと思ったことを覚えている。そして、この旅行から、世界の貧困に苦しむ人たちのために何かできないかと考えるようになった。

10億人。これは、世界に占めるスラム人口の数だ。2000年の時点では、約7.6億人だったスラムの人口は年々増加しているといえるだろう。また、10億人という数字は世界の人口の8分の1にあたりと知り、私はとても驚いた。ここまで多いとは思っていなかったからだ。

どうしてスラムができてしまうのか。私はその国の歴史を調べてみれば原因がわかるのではないかと考え、早速、カンボジアの歴史について調べてみた。

カンボジアといえば、人気の観光スポットアンコールワットが有名である。私も実際に行き、その姿に圧倒された。アンコールワットは、30年かけてアンコール王朝のクメール建築の最高傑作として建設された。しかし、その後、アンコール王朝は弱体化してしまう。原因は国内情勢の不安定さ、民族の侵略だった。その支配を解消するためにカンボジア政府はフランスに接近した。それを受けフランスは、カンボジアを保護国とした。その後、第二次世界大戦もあり日本軍に占領されたこともあったが、1953年、カンボジアは独立を達成する。工場の建設、道路の整備をして国の発展を目指した。しかし、1975年独裁者のポルポト政権に支配され、カンボジア大虐殺が起こるのだ。強制労働、虐殺を繰り返し、最終的には170万人にもおよぶ国民が殺害されてしまった。この数は、当時の人口の4分の1にあたるそうだ。この虐殺が起こったのは、思っていたよりも最近のことで、私は驚き、悲しい気持ちになった。そして、もっと多くの人に知ってほしいと思った。

この虐殺が現在のカンボジアのスラムや貧困につながっていると言われている。私もこのような虐殺や戦争が原因で貧困が生まれ、スラムが出来上がっていくと考える。貧困は、世界中で起きている内戦、紛争、国政の不安定さからくるのだ。今、地球に暮らしている人

の10人に1人が貧困レベルの暮らしをしている。

昨年、国語の教科書にイースター島のモアイ文化が減んだ原因について書かれた文章があった。その国と文化が減んだ原因は、食糧危機からの部族間抗争だった。読んでいくと、イースター島の歴史と今の地球の状況が比較されていて、イースター島がたどった歴史と今の地球の状況が似ていることがわかった。また、今の地球の耕作できる面積で賄える人口は80億人がぎりぎりであることも知った。地球の食糧危機は目の前に来ていると感じた。

そんな学習をした矢先の昨年11月、地球の人口が80億人を突破したというニュースを目にした。今、世界では、食糧問題、貧困の問題が深刻になっていると改めて気づかされた。

「この値上げはいつまで続くのか。」

最近、この言葉をよく耳にする。その値上げの原因のひとつが今も続いているウクライナ戦争だ。最初、私は「ウクライナと私の住む日本がどうして関係があるのだろうか。あんなに距離が遠いのになぜだろう。」と疑問に思った。穀物大国や産油国である二国が戦争に至ったことで輸入量が大幅に減り、物価の上昇が起きた。魚介類は、ロシアの上空を避けて空輸するため飛行距離が増え、コストがかかることが値上げの原因だ。ウクライナの戦争や新型コロナウイルスの流行の影響で、食糧危機が起こっているのは明らかだ。私は、この食糧危機が、貧困に苦しむ人たちにどのように影響していくのか気になっている。

世界の人口分布を見ると、世界の人口の3分の2が少子化社会で生きている。そして、今の人口の増加の半分はアフリカ・アジアの貧困に苦しむ人の多い地域で起こっている。

世界で起きている貧困と飢餓の深刻な問題について、私たちのような中学生は身近に感じられていない。私もそのひとりだった。「嫌いだから」という理由で食べ物を平気で残す。賞味期限切れだからと買った食べ物を手つかずで平気で捨てる。世界の食糧危機に対して、日本の食品ロスも深刻だ。だからこそ、私たちはニュースなどを見て世界で起きていることに関心を持って知ろうとしなければならないと思う。関心を持って生活していれば、ふとした時に何か自分がやれることに気づくことができるかもしれない。

社会の授業で、アフリカのガーナの子供たちの労働について学んだ。ガーナで栽培されるカカオの収穫に子供たちが携わっており、そのカカオは日本で私たちの口に入るチョコレートになっている。日本に送るチョコの値段は安すぎて働いている子供たちの生活の足しには全くならない。子供たちの貧困はどこまでも続く。しかし、私は子供たちを助ける「フェアトレード」という方法もあわせて学んだ。「私たちにもできることがある。」それがとても印象に残っている。大きなことはできないが、「フェアトレード」のような小さなことから貧しさに苦しむ人を助ける方法はあるのだ。

私は今、恵まれた環境で生きている。そんな恵まれた環境にあるからこそ、自分さえよければいいと思うことは絶対にしてはいけない。「食べるものが少ししかなければみんなで分ける。」家族であれば当たり前でできることだ。これが国同士であつたらどうだろう。難しいことかもしれないが、家族と同じように分け合うことができなければ、飢え、争い、滅亡していく未来しか残されていないのではないかと。SDGsではまず最初の目標として「貧困をなくすこと」「飢餓をなくすこと」があげられている。日本も国際社会の中でこの2つの目標達成のために、食料支援や農業開発の技術支援をしている。私も広い視野でものを見て、自分にできる小さなことを少しずつやっていけるようになりたい。世界で起きていることにもっと関心を持ち、疑問に思ったことは積極的に調べていくことを大切にしたい。

参考文献

「【3分でわかる】カンボジアの歴史をわかりやすく年表にまとめてみた」

<https://techpackers4.com/cambodiahistory-easy/>

消費者庁 HP <https://www.wage-price.caa.go.jp/>

アピステコラム <https://www.apiste.co.jp>

「モアイは語るー地球の未来」国語2 光村図書

外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

世界人口白書2023